

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人旭川医科大学

1 全体評価

旭川医科大学は、医療の質の向上、地域医療への貢献を推進するため、高い生命倫理観を持ち高度な実践的能力を有する医療職者を育成するとともに、生命科学に関する先端的な研究を推進し、高度な研究能力を持つ研究者を育成することを目指している。第2期中期目標期間においては、大学と地域社会や国際社会との連携を図り、社会に開かれた大学を目指すこと等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、地域医療に貢献すべくドクターカー試験運行を実施するとともに、スポーツ医科学研究委員会を中心として障害者スポーツを支援するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

地域の基幹病院として診療機能の強化を図るため、経食道電子セクタ探触子、移動型X線撮影装置等の整備を行うとともに、地域の医療機関と連携して地域の看護師の資質向上を図るため、他病院の看護師72人を受入れ、新人看護師研修を実施している。また、地域で臨床研修を行う学生に対して自治体から奨学金を支給する連携協定を拡大することで、地域医療を担う医師の養成及び確保を進めている。

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

#### ○ 計画的な復職・子育て・介護支援

「復職・子育て・介護支援センター」（略称：二輪草センター）において、二輪草プラン推進委員会で策定した年間活動予定表に基づき、セミナーや研修会等を計画的に実施するとともに、学内研修会等に参加する者に対する託児サービスを3回実施している。これらの活動により、北海道労働局から子育てサポート企業の認定を受け「くるみんなマーク」を取得している。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

(平成26年度評価において指摘した重大な改善事項への対応状況)

- 財務に係る大学のガバナンス体制を改革するため、財務担当理事を任命し、財務委員会を新設するなど予算管理・執行体制を見直すとともに、毎月の執行データを用いた経営状況の「見える化」を推進することで、誰もが経営状況を把握できる体制を整えている。また、臨時的給与削減を含めた予算執行縮減を行い、収支状況は黒字化されている。今後の中長期的な組織運営のための、更なる健全な財務運営システムの構築が期待される。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 実効性のある研究倫理教育の実施

研究者教育講習の年間計画を策定し、利益相反、各種倫理指針の説明会を実施するとともに、研究者教育講習において不正行為・不正使用防止の啓発を4回実施している。講義終了後には、理解度チェックシートにより受講者の理解度を把握し、次回の講習会の改善等への参考とするなど、実効性のある研究倫理教育の実施に努めている。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

---

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 単位互換授業の実施による教養教育の充実

国立大学教養教育コンソーシアム北海道による単位互換授業を実施し、遠隔授業形式や対面形式で自大学の授業科目を他大学の学生に開放しており、大学独自のチューデントアシスタント（SA）研修会の実施により授業補助業務の円滑化も図りながら、幅広い教養教育を提供している。

### ○ 留学生に対する教育支援の拡大

道内国立大学連携による大学院入学前準備教育2週間プログラムに、在学学生も参加可能としているほか、平成28年度から双方向遠隔授業システム及びe-learningを活用して大学院集中セミナーを実施することを決定するなど、留学生に対する支援を充実している。

### ○ スポーツ医科学研究委員会による障害者スポーツ支援

スポーツ医科学研究を推進し、広く研究成果を社会還元するため、スポーツ医科学研究委員会が中心となり、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」の講師として医師4人派遣し、安全管理・知的障害・精神障害及び身体障害についての講義を行っているほか、「第1回旭川市障がい者文化スポーツのつどい」に主催団体として参画し、企画・運営に当たっている。

## 附属病院関係

### （教育・研究面）

### ○ 地域の医療の質向上に資する教育の場の積極的な企画・提供

地域の医療機関等と連携して、他病院の医療従事者を含めた「新人看護師研修」や「北海道緩和ケア研修会」、「がん診療セミナー」等を開催し、地域の医療の質向上に資する教育の場を積極的に企画・提供している。

### （診療面）

### ○ 地域医療への貢献と医師の資質向上を目的としたドクターカー試験運行

地域住民の救命率の向上を図ることで地域医療に貢献するとともに、若手医師や初期臨床研修医等に重篤な患者に対する医療を早期に経験させるため、上川中部医療圏を構成する旭川市他9町とドクターカーの試験運行開始に向けた協議を行い、平成27年度から運行を開始している。

### （運営面）

### ○ 病院収入増額に向けた各種分析に基づく取組

歯科口腔外科による土曜日定期手術の試行や高額医療機器の稼働率を向上させることにより約1,560万円の増収を実現したほか、包括医療費支払制度（DPC）対出来高差額の主なマイナス症例の原因や診断群分類ごとの適正入院期間等の分析を行い、その結果に基づいて各診療科が改善を推進した結果、診療報酬請求額は対前年度比で11億900万円増となっている。